

[報告]

## 教育方法改善のためのスポーツ資料収集

—ギリシャの「古代オリンピック遺跡・競技場及び博物館」を中心として—

向山 貴仁\*

### Report of overseas training —The remains of an ancient Greek Olympic—

Takahito MUKOYAMA\*

#### 1. はじめに

平成20年2月21日より3月11日までの20日間、ギリシャにおける海外研修（短期）の機会を得た。

申請の動機は、これまで教育方法の改善（模擬授業の導入）、テキスト教材（保健体育科教育法、特別活動）の作成を行ってきたが、近年の学生はビジュアル世代であり授業においても視覚に訴えた内容・方法の充実の必要性を痛感していたからである。平成19年度より九州共立大学スポーツ学部で奉職し「スポーツ学概論」（1年）、「保健体育科教育法Ⅰ」（2年）の講義を担当し、今後も「スポーツ教育概論」（3年）、「学校体育論」（3年）等、スポーツ学部における人文科学分野の講義を多く担当することとなった。スポーツ学部で学ぶ学生にとって、これらの科目はスポーツ学の基礎科目として、また、教職関連科目として内容の充実を図る必要があると考えた。

紀元前8世紀に始まった古代オリンピックの競技遺跡及び博物館等の文化財は、スポーツの原点として有形無形の教材的価値を持ち、担当講義科目だけでなくスポーツ学部全体の教育活動に密接に関連する。しかし、本学における具体的映像による教材については十分とはいえない状況にあった。そこで、本研修では、ギリシャの古代オリンピック遺跡及び博物館を対象とし、映像を中心とする講義用資料の収集を目的とした。

#### 2. 研修の概要と成果

##### 1) 研修内容（主な視察・撮影遺跡）

研修中の主な視察・撮影遺跡は、海外研修日程表（別紙）のとおりアテネ（前後6日間）、オリンピア（5日間、オリンピア、メッシーニ、パッセ等）、デルフィ（2日間）、メテオラ（2日間）、ミケーネ（1日間）等に滞在し、さらに帰路ローマ（2日間）にも滞在した。

各都市においては、古代遺跡・競技場・附属施設及び隣接する考古学博物館等において資料収集を行った。また、各施設においては、「ビデオ映像」（600分、60分×10本＝600分）の収録、「写真撮影」による資料収集を行い、さらに「古代遺跡・オリンピック関連文献」等6点、「古代オリンピックに関するDVD映像」2点を購入した。以下、研修の概要と成果について略述する。

##### (1) 「アクロポリス遺跡」

「アクロポリス」は、「高い丘上の都市」の意味である。古代には聖域と要塞の役割を果たした。その歴史は、紀元前13世紀には城塞、紀元前8世紀には聖域、紀元前6世紀には古パルテノンの建造とペルシャ戦争による破壊、紀元前5～4世紀における現在のパルテノンの建造と1687年の大破と続く。現在も紀元5世紀頃の状態への修復作業が継続されている。

2月22日の深夜にアテネ到着し、仮眠後の早朝アテナス通りから初めて「アクロポリス遺跡」を見た時、その偉容はまさに「高い丘上の都市」の名前ど

おりであった。遺跡の入り口まで上り坂が続き、城塞を見上げながら登坂では一汗かく程であった。

3月6日に二度目の視察を行った。この日は現地の有名歌手の命日であったことから偶然にも入場は無料であった。「アクロポリス遺跡」には「パルテノン神殿」をはじめ見所は多いが、丘の南側にもポリスの生活を窺うことのできる遺構があり映像に収めつつ古代を偲んだ。

(2) 「古代のアゴラ」、「ローマンアゴラ」、「現代のアゴラ」

「古代アゴラ」は、「アクロポリス遺跡」のすぐ北に位置する。アゴラは「市場」を指す語であるが、古代では政治、宗教、文化的施設が集中した場所を意味し、古代の著名な哲学者から庶民にいたるまで人々の生活の場所であった。散策していると様々な建築物の一つに「ギュムナシオン」を偶然みつけスポーツ施設の発見に喜びを覚えた。

「ローマンアゴラ」は、紀元前1世紀から紀元後2世紀のローマ時代初期のアゴラの跡である。

「現代のアゴラ」は、オモニア広場から南へ延びるアティナス通りにあり、肉屋、魚屋、八百屋が各50軒ずつ以上ありアテネの胃袋といわれる。

(3) 「国立考古学博物館」

ホテルから徒歩15分程の所に、ギリシャ各地の遺跡からの出土品を収蔵する世界有数の「国立考古学博物館」があった。著名なコレクションだけでも、「ミケーネ遺跡」でシュリーマンにより発掘された「黄金のマスク」をはじめ、「クーロス像（青年の像）」、「ポセイドンのブロンズ像」、「馬に乗る少年」、「アンティキセラの青年」、「ゼウスの大理石像」、「アフロディテとパン（牧羊神）の像」等数え挙げれば切りがない。また、スポーツ関連の出土品も、「ボクシングをする少年の壁画」、「ハルテーレス」、「円盤」、「スポーツ場面の大理石彫刻」等が展示されていた。

2月23日に午前8時の開館と同時に視察を開始したが、気がつくと午後1時を回っていた。3月5日に「ミケーネ遺跡」を視察後、7日にも視察とビデオ撮影のため再訪した際、コレクションの意義を再認識すると同時に、膨大なコレクションの撮影の無謀さも感じた。

(4) 「オリンピア遺跡」

「オリンピア遺跡」は、今回の研修の主目的の一つであった。「オリンピア遺跡」は、ペロポネソス半島北西部に位置し、アテネの「キフィスウバスターミナル」からバスで所要時間5時間であった。

オリンピアは、昨夏（2007年8月）の山火事後遺症が広範囲に見られた。当時、山火事が同遺跡まで迫っているとの報道は記憶しているが、これ程の惨事とは想像していなかった。山火事はスパルタで発生し一週間でペロポネソス半島を縦断するスピードで焼き尽くされたそう。クロノスの丘はベンキで緑色に着色されるなど復旧を急いでいた（後日、北京オリンピックの採火式が挙行されたことから、そのための景観づくりではなかったかと考えた）。

「オリンピア遺跡」は、予習の影響もあり初めての訪問とは思えず、穏やかな景観を呈していた。遺構の一つ一つを確認し古代ギリシャ人とスポーツとの歴史の重みを実感した。紀元前4世紀中頃に建造された「競技場（スタディオ）」に立った瞬間には、訪問の喜びと感動を覚えた。主要な遺構だけでも34ヶ所にのぼるため詳細は省略する。

(5) 「オリンピア博物館」、「古代オリンピック競技博物館」、「オリンピック競技歴史博物館」

オリンピアには三つの博物館がある。「オリンピア博物館」は、オリンピア遺跡の発掘による出土品のうち建築物の復元等や中心に展示され、「古代オリンピック競技博物館」は、古代オリンピック競技の状況を中心に展示され、「オリンピック競技歴史博物館」は、近代オリンピックの経緯について展示が行われていた。

スポーツの原点を示すこれらの出土品は至宝ともいえる。初めて訪問した者が言うのもおこがましいがスポーツに関わる人間（特に学生時代に）は是非彼の地を訪れ、世界的な文化財に触れるべきだと痛感した。

(6) 「メッシーニ遺跡」

「メッシーニ遺跡」は予定外の視察であった。2月25日の午前、ホテル「アポロン」のロビーで支配人と雑談中、ある男（彼はタクシードライバーであった）が話に加わり、あれこれやりとりするうち「メッシーニ遺跡」への売り込みが始まった。「メッシーニ遺跡」についても不勉強であり、全く偶然であったが「競技場（スタディオ）」もあるとの一言で気持ちは固まった。料金交渉の末4時間で80ユーロ（最初は100ユーロであった）で商談が成立した。同遺跡は、ペロポネソス半島南西部にありオリンピアから100キロ程度に位置し、翌26日の8時に出発したがドライバーは一般道であったが猛スピード（平均100キロ以上）で向かった。

「メッシーニ遺跡」は、周囲を山々と堅固な城門・城壁に守られ一際高い山を背にした典型的な「ポリ

ス」で、一目で世界史の授業の記憶が甦った。

メッシーニは、その土地柄（ペロポネソス半島西部）から他のポリスとともに古代オリピックの初期から参加し、多くの優勝者も輩出した記録が残っている。数多くの遺構の中でも「競技場（スタディオン）」は復元され、紀元前（1～2世紀）の姿を示し、素晴らしい教材に出会うことができた。また、「オリンピア遺跡」と同様、附属する競技施設も整えられ、ここでも古代ギリシャ人の強烈な競技意識を確認した。

#### (7) 「バッセ遺跡」

「バッセ遺跡」も、例のタクシードライバーの売り込みから視察を決定した。料金交渉の結果は60ユーロ（9800円）で手を打った。

「バッセ遺跡」はオリンピアから60キロ程度の山にあって、同遺跡については事前の予備知識は皆無であったが、ミシュランの地図上には観光ポイントとしてのマークがあった。アテネのパルテノン神殿に比較しやや小さい印象であったが、パルテノン神殿建造の37年後に同一人物により建築されたとのことであった。その理由は、当時ペロポネソス半島ではベストが流行し、難を逃れた人々が建築したとのことであった。現在も修復作業が継続されている。

#### (8) 「デルフィー遺跡」、「デルフィー博物館」

「デルフィー遺跡」は、アポロンの神託の行われた古代ギリシャの宗教の中心地であった。パルナッソス連山の峡谷にあり、「世界のヘソ」と称された。アテネの北西178キロに位置し、日帰り観光のできる世界遺産として世界各国からの観光客も多い。

また、「デルフィー（The Pythian Games）」は、「オリンピア（The Olympic Games）」、「コリント（The Isthmian Games）」、「ネメア（The Nemean Games）」と並ぶ古代競技のメッカであった。「競技場（スタディオン）」は、遺跡の中でも最も高い場所にあり、オリンピアに優るとも劣らない遺跡であった。また、やや離れた場所に「ギュムナシオン」があり2500年以上も前の時代の古代ギリシャ人のスポーツ・競技に対する態度を改めて考えさせられた。

「デルフィー博物館」には、「競技者の像」、「青銅の御者の像」等、有数の出土品が収蔵されている。

#### (9) 「メテオラ（奇岩群）」

3月2日に「デルフィー遺跡」を後にし、バスで「メテオラ」の麓の「カランバカ」に向かった。日本と異なり直行バスは無く、乗り継ぎのため7時間近い移動であった。

「メテオラ」は、ギリシャ中部のテッサリア地方に

位置し、「奇岩群」として面白い景観であった。世界遺産であったことから多くの観光客が訪れ賑わっていた。奇岩群の上には修道院があり、ここでも神戸大学の卒業旅行に来ていた二人連れと「観光タクシー」との交渉し、3時間で一つを残し巡ることができた。帰路は、トレッキングコースで奇岩を見上げながら、カランバカの町まで50分程歩いた。

#### (10) 「ミケーネ遺跡」

「ミケーネ遺跡」は、3月5日に日帰りで視察した。コリントスの南30キロに位置し、アテネからバスで片道2時間半程度であった。

「ミケーネ遺跡」は、紀元前16世紀から紀元前12世紀に栄えた文明で、1876年にドイツの考古学者ハインリッヒ・シュリーマンにより発掘された。背後に大きな山を持ち、外敵の攻撃からの守りを意識した地形が印象的であり、城壁の入り口にある「獅子の門」は予想以上の大きさと権力を象徴していた。ゆっくり回っても1時間程度で視察可能な規模であった。競技遺跡は存在しないが、「競技やゲーム」に関する記録はある。

## 2) 収集資料

今回収集した資料は以下のとおりである。

### (1) 書籍資料

・GEORGE A. CHRISTOPOULOS (2003) THE OLYMPIC GAMES IN ANCIENT GREECE, ANCIENT OLYMPIA AND THE OLYMPIC GAMES. EKDOTIKE ATHENON S. A. ATHENS.

・MANOLIS ANDRONICOS (2007) Delphi. EKDOTIKE ATHENON S. A. ATHENS.

・OLYMPIA VIKATOU (2006) OLYMPIA THE ARCHAEOLOGICAL SITE AND THE MUSEUM. EKDOTIKE ATHENON S.A. ATHENS.

・DIANA ZAFEIROPOULOU (2007) THE NATIONAL ARCHAEOLOGICAL MUSEUM, HELLENIC MINISTRY OF CULTURE ARCHAEOLOGICAL RECEIPTS FUND. ARCHAEOLOGICAL RECEIPTS FUND DEPARTMENT. ATHENS.

・NIKOLAOS KALTSAS (2005) OLYMPIA, MINISTRY OF CULTURE ARCHAEOLOGICAL RECEIPTS FUND. ARCHAEOLOGICAL RECEIPTS FUND DIRECTORATE OF PUBLICATIONS. ATHENS.

・DIANA ZAFEIROPOULOU (2003) ANCIENT MESSENE, MINISTRY OF CULTURE ARCHAEOLOGICAL RECEIPTS FUND. ARCHAEOLOGICAL RECEIPTS FUND

DIRECTORATE OF PUBLICATIONS, ATHENS.

(2) DVD映像資料

・448 BC OLYMPIAD, AUTHENTIC OLYMPIC GAMES OF THE 5th CENTURY B C. (120min)

・ANCIENT OLYMPIA, THE HOLY SITE OF ZEUS - THE MUSEUM.(63+63min)

(3) 撮影・編集資料

・多数

### 3. 研修の事前・実際・事後

#### 1) 日程、計画

今回は単独での行動で、ツアー旅行の場合と異なり旅行日程は自由であった。日程作成には昨年(2007年)の12月から開始したものの最終決定をみたのは出発約1週間前の2月13日であった。この間様々な計画、アドバイスを頂きながら5回の計画変更を行ったが、結局初期の計画に後戻りした結果となった。その理由は、ローシーズンであることからエーゲ海への船舶利用による移動の難しさにあった(船舶は4月以降は可、飛行機は可だが運賃が2.5倍程度)。

結果的には、アテネ、ペロポネソス半島、テッサリア地方を中心とする陸地が中心となった。エーゲ海、小アジア方面は次回のお楽しみとした。

航空チケット、ホテルはすべて予約し出発した。結果的には成功であった。

#### 2) 事前準備と実際

事前に、参考文献欄のような古代ギリシャ史、ギリシャ神話、古代オリンピック関連文献を購入し予備知識の獲得を試みていたが「百聞は一見に如かず」であった。

気候についてもインターネット、ガイド・ブックにより気温、降水量の情報・記事はあったが、どの程度の準備が妥当なのか判断できず苦勞した。防寒具や登山用の雨具(念のため)も持参したが、現地は「桜」が開花する程の温暖な気候であったり、降水量は11月が多く2、3月は少ないことが分かり不要であった。

また、移動はバスによることとしたが、事前に現地のバス路線図、時刻表等の情報収集を試みたが鉄道利用と異なり情報は皆無に等しい状況のまま出発した。失礼を顧みず述べさせて頂くと、バスに関しては「切符売り場」、「時刻表」、「乗り換え案内」等、日本の状況とは大分異なり苦勞した。

#### 3) トラブル

2月24日の移動中は下痢と腹痛に悩まされた最悪

のバス旅行であった。途中の景観を見るどころではなく3回の休憩はひたすらトイレに居座る始末であった。バスも主要なバス停に止まるのではなく任意の場所で降車ができる様子であった。ホテルの人の話ではアテネまで車で4時間とのことであった。

### 4. まとめ

ギリシャ・ローマの競技遺跡は、あまりにも有名すぎる文化財であるが、今回はじめて現地訪問が実現し、「百聞は一見に如かず」の言葉どおり世界的文化財を直接視察、見聞でき想像以上の存在の大きさに感銘を受けた。

この機会を与えて頂いた大学に対し心より感謝する次第である。収集資料は、パワーポイントにより編集し「スポーツ教育概論」の授業、9月23日のオープンキャンパスで既に活用した。また、今後の授業において十二分に活用する予定である。

#### 参考文献

- 1) 阿刀田 高(2003)私のギリシャ神話. 東京: 集英社.
- 2) 伊藤貞夫(2006)古代ギリシャの歴史. 東京: 講談社.
- 3) 高津春繁(2006)古典ギリシャ. 東京: 講談社.
- 4) 「地球の歩き方」編集室編(2007)地球の歩き方 A24ギリシャとエーゲ海の島々&キプロス. 東京: ダイヤモンド・ビッグ社.
- 5) 桜井万里子, 橋場弦編(2004)古代オリンピック. 東京: 岩波書店.
- 6) 塩野七生(2002)ローマ人の物語 ローマは一日にして成らず(上). 東京: 新潮社.
- 7) 塩野七生(2002)ローマ人の物語 ローマは一日にして成らず(下). 東京: 新潮社.